参考資料１

議事録（議事要旨）［第２回会議］

１．日　時　平成３０年５月３１日（木）１３：００～１４：３０

２．場　所　福井県庁７階 特別会議室

３．議　題　高校入学者選抜における英検加点について

４．出席者　進士五十八座長、秋田喜代美委員、安達洋一郎委員、
石井バークマン麻子委員、五十川早苗委員、宇佐美嘉一委員、
荻原昭人委員、角野俊彦委員、佐々木知也委員、釣本真史委員、
中嶋茂男委員、林正岳委員、吉川雄二委員
東村健治教育長、吉井正雄教育委員、西野里佳教育委員、
八田嘉一郎教育委員、南部隆保教育委員、原公樹教育委員

５．議事要旨

○　事務局から、英検加点の見直しについて、（案１）２級への15点加点を廃止し、準２級以上に10点、３級に５点を加点（案２）原則、３級以上に５点を加点。学校によっては、準２級以上に５点加点（案３）３級以上に一律５点を加点。の３案を説明した。

○　委員から、英検加点は福井県が全国初とのことだが、どこもやっていないからやめるというのは公務員的な発想である。ビジネス界からすると、やっていないことをやることに意味があるとの発言があった。

○　委員から、スピーキング力を付けるのであれば、学校での留学生受入れや外国語指導助手（ＡＬＴ）の増員など、英検以外の取組みを同時に行うと説得力が増すとの発言があった。

○　委員から、英語は道具にすぎない。英語を話すための基本的な日本語力や論理的な思考力など、そういうものを高めないと意味がないとの発言があった。

○　委員から、大学入試でも外部試験の枠はそんなに大きくならないだろう。県の見直し案の点数は極めて妥当性が高いと思う。大阪府の例では、英検２級以上を公立高校の入試と読み替え、よい方の得点を使うことになっているが、２級以上はハードルが高く、受験率が上がっていない。県が考える準２級というのは妥当性が高いとの発言があった。

○　委員から、高校が「うちの学校は準２級とか２級は加点を高くする」というアドミッションポリシーを明確にするのはよいこととの発言があった。

○　委員から、スピーキング力をつけるには、英検と同時に相手に伝えたいという気持ちを育てることが大事。そのために、学習環境の中に他の国の人と話す活動を取り入れることも考えてほしいとの発言があった。

○　委員から、英検の級が上がると自信がつき、自信がつくと英語は話せるようになる。英検の級自体はあまり重要でないが、次のハードルが見え、自信を持つことでもっと話してみたいと思える環境となる。福井の先進的なアイデアはうまく続けてほしいとの意見があった。

○　委員から、薄っぺらい英語が喋れても、相手の心に届く言葉にならない。自分が何をどの人に伝えたいのかが大切であり、その手段としての英語をどう伸ばすかという話だと思うとの発言があった。

○　委員から、英検加点の枠組みからいうと、案２が妥当かと思う。受験のためではなく、将来を見据えて、日本語以外に人に届く言葉をほしいと思う中学生を後押ししてほしい。２級への加点も廃止しなくていいと思うとの発言があった。

○　委員から、３級や準２級の取得率が高まったとの成果が出ており、現在のまま継続することも選択肢の一つ。一人ひとりの可能性を伸ばすことが重要で、頑張ったことを評価してあげることには何の問題もない。加点の縮小により、中学校での学び方に影響が出ないか心配を覚える。３級で満足してしまうことがないだろうかとの発言があった。

○　委員から、英検などの受験補助について、１回だけでなく、複数回の支援はできないかとの発言があった。

○　委員から、中学２年生の保護者の立場から、今回の件について、保護者が一番敏感。塾に通わないと合格できないのかどうかなど、ほとんどの保護者は情報が錯綜し、適切な情報が伝わっていないのでないか。できるだけ早く、確定でなくても情報を伝えることが大事ではないかとの発言があった。

○　委員から、受験のための英検ではなくて、加点によるきっかけで英語が大好きになる子どもが増えることが大事だと思うとの発言があった。

○　委員から、英検加点を導入することにより、英検の受験者を増加させ、結果として、英語の授業実践を後押しするというのであれば、加点幅を縮小するというのは妥当。英検資料の中で、中学生では３級から準２級程度とあり、２級への加点廃止は妥当であり、高校入試が中学校において学んだことをきちんと結果として出させることが目的とすれば、加点は準２級までかと思う。今後は、英語力を総合的に判断する方法とか指標が必要ではないかとの発言があった。

○　委員から、これまで英検３級は中学校卒業程度、準２級は高校中程度とのイメージの刷り込みがあった。準２級を目指すことは指導要領の逸脱ではないので、うまく説明することが必要。案２では、３級加点とした高校を受験しようとする中学生が、どれだけ準２級を目指そうとするだろうか。学校によっては、案１を選ぶのでもよいのではないかとの発言があった。

○　委員から、義務教育での学習内容をしっかりと学んだ上で、自分で進路を選択し、あるいはチャレンジしていくのが入試。そういう面で、英検３級と準２級を加点する案２でいいのではないかとの発言があった。

○　委員から、英検受験について、県の１回の受験料補助以外に、高浜町も１回補助している。経費の面も含めて、チャンスが与えられるよう応援してほしいとの発言があった。

○　委員から、英語も大事であるが、日本語力を上げることが重要。人前で話せるか。人の言うことを聞けるか。難解な文章を読めるか。英語だけ４技能を先行させるのは、問題点が違うと思うとの発言があった。

○　委員から、大学入試での英検活用も、直近２回の成績しか認められないという問題もある。意欲があれば、生徒は自ら英検を受けるのだから、３級以上を評価すればよく、一律３級に加点する案３を支持するとの意見があった。

○　委員から、受験のために、加点のために塾へ通わないといけないというのは間違っている。案３は、勉強の意欲が無くなるので、避けるべき。案１か案２で子どもたちに頑張ってほしい。とにかく、健全な心身の育成。日本人たる道徳。人との協調性。社会で一番必要とされるこの部分が欠如しているように感じるとの発言があった。

○　委員から、皆が英検に親しみ取得しているのなら、日本一は素敵なこと。いずれの案でも影響が少ないのであれば、案３でいいと思う。高校入試までにどれだけレベルアップするかは、別の方法を考えればよい。大学入試において、英検が取り入れられるのか、他の外部試験が取り入れられるのかを見据えて、考えてもらいたいとの発言があった。

○　委員から、英検加点制度を始めたことにより、部活をやめた生徒がいないか、塾に通うなど経済的負担が増えていないか、中学校の教員の負担が増えていないかなど、マイナスの面がないか把握する必要があるとの発言があった。

○　オブザーバーから、昨年は、中学校長会としては、３級以上一律加点ということを言ってきた。準２級が高校中級程度、２級が高校卒業程度という刷り込みがあった。校長会で今回アンケートを行ったが、案２に対して、賛成またはやむを得ないという意見が半数以上に達した。新任の校長や小学校から初めて中学校に上がった校長が１／３ほどいるので、県から全中学校長を集めた説明会をお願いしたい。更に理解が深まると思うとの発言があった。

○　座長から、学校ごとに求める生徒は異なり多様な時代になっているが、基礎的な能力は必要。単に入試のためというのではなく、実際に英語能力を使ってみる場所や舞台が必要との意見が多かった。提案のあった３つの案とも肯定され、特に案２を推す意見が多かった。本日の多様な議論を参考にして、これから先は教育委員会で決めてもらいたいとの発言があった